

山梨県芸術文化協会情報誌

藝文 やまなし

Vol.42

令和2年3月号

CONTENTS

- 令和元年度を振り返って
- イベント紹介
- 芸術劇場 公演団体の声
- 芸術劇場 開催団体の声
- 芸術文化講習会 開催部門の声
- 賛助会員の紹介

事務局

山梨県県民生活部 生涯学習文化課内

〒400-8501 甲府市丸の内1-6-1 TEL 055-223-1797 FAX 055-223-1320

<http://yamanashi-geibun.net>

令和元年度を振り返って



山梨県芸術文化協会会長
野口 英一

木々や花が芽吹き始める様子に、春の訪れを感じる季節となりました。

令和元年度も、会員の皆様のご協力により、山梨芸術劇場や指導者派遣などの事業を無事に終了することができましたことに、感謝申し上げます。

山梨芸術劇場では、音楽、邦楽、演劇、太鼓の各部門の会員による6公演を実施し、舞台芸術を鑑賞、体験する機会として、文化芸術に親しみ、その素晴らしさをお伝えすることができたと思います。

指導者派遣事業では、文学、茶道、朗読、書道、フラワーデザイン、音楽、合唱、邦楽、演劇、洋舞、民謡民舞、太鼓の各部門の会員が、派遣希望のあった小、中、高等学校等に出向き、指導していただきました。それぞれの専門分野の会員から直接指導を受けることにより、文化芸術への興味、関心を深める機会になったと思います。

芸術文化講習会では、書道、ハンドクラフト、朗読、太鼓、吹奏楽の各部門の会員による講習会が実施されました。本県の芸術文化の振興に資するため、自主的活動の促進と指導者育成に役立てることができたと思います。

さて、平成30年12月には文化芸術の振興等に関する施策の基本となる事項を定めた「山梨県文化芸術基本条例」が制定されました。

当協会で行っている芸術劇場や指導者派遣は、まさにこの条例で示す文化芸術の振興や担い手の育成を推し進めるものです。若者達という種が文化芸術の芽を出すためには、水を撒いてあげることが必要です。それは、一時的ではなく長いスパンで継続的に行う必要があります。すぐに結果が見えるものではないかもしれません。芸文協会員の高齢化や、会員数の減少傾向にある中、この条例が当協会のこうした活動を後押ししてくれる期待を期待するところです。

また、2020年はいよいよ文化の祭典でもある東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されることもあり、山梨県の文化芸術を盛り上げる絶好の機会となります。この機会を一過性のものとして終わらせず、山梨県の文化芸術を将来に渡り発展させていくためにも、私たち文化芸術団体はこれまで以上に主体的に活動を充実させ、山梨県の文化芸術において大きな役割を果たしていくかなければなりません。会員の皆様におかれましては、本協会の事業に対しましてご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

結びに、会員の皆様の今後ますますのご健勝とご活躍をお祈りいたします。



イベント紹介

会員の活動をホームページで紹介しています。詳しくはこちら



芸術劇場 公演団体の声

南アルプス桃源交響楽団 団長 植村武彦

2019年11月30日、今期一番の冷え込みとなった甲府市立北西中学校の体育館にて実施した「山梨芸術劇場」は、過去に何度も訪問演奏を行ってきた私たち南アルプス桃源交響楽団のメンバーにとても忘れる事のできない素晴らしい音楽体験イベントとなりました。

甲府市立北西中学校の創立40周年の記念行事として約400名の生徒・保護者・教員の皆様にお集まりいただきました。2部形式で約1時間30分の演奏機会をいただきました。

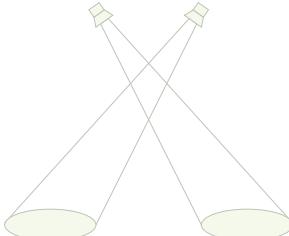
まず、第1部は世界のバレエ音楽の中でも最も有名な曲の一つ、チャイコフスキー作曲「白鳥の湖」から6曲を抜粋してお届けしました。これは、直前の10/27に桃源文化会館で開催した当団の第47回定期演奏会で演奏した曲ですが、今回は生徒の皆さんに少しでもクラシック音楽に興味をもっていただきたいとの考え方から、1曲ごとにバレエのストーリーや曲の聴かせどころなどの詳しい解説を加えた



「音楽教室」的なステージにいたしました。

続いて行った第2部は、いわば「体験ステージ」。若者に大人気の「米津玄師」や「Back Number」のポップミュージックを、北西中学校吹奏楽部の皆さんと私たちのオーケストラとの合同演奏でお届けしました。吹奏楽部との合同練習は当日昼間の約1時間のみでしたが、両者とも息はぴったり。60人以上の大楽団の中で中学生の奏者が立派なソロを奏でる姿が印象的でした。

最後には、オーケストラの伴奏で全校合唱曲である「ケ・サラ」と「校歌」を生徒全員が大合唱。澄んだ、若々しい歌声が会場内に響き渡り、大きな感動を巻き起こしました。私たちも「音楽をやっていて良かった」と実感できた素敵な時間でした。今回のイベントの実現にご尽力いただいた関係者の皆様に心から感謝の意を表し、筆をおきたいと思います。本当にありがとうございました。



芸術劇場 開催団体の声

甲府市立北西中学校 教頭 山縣 裕二

秋も深まり朝夕冷え込むようになった11月の末、南アルプス交響楽団による演奏会を北西中体育館で開催しました。本校創立40周年の記念行事として、生徒の心に残る芸術鑑賞の機会を与えられないかと考えたものの、資金の捻出しがなかったために、すがる思いで応募したことがきっかけでした。

申し込み時に、生徒と楽団との共演を希望をしました。そのため演奏の合わせに大変な準備が必要だらうと考えていましたが、実際には楽団側から打ち合わせのための訪問を2回していただいただけで、当日をむかえられました。

そして当日。第1部ではチャイコフスキーのバレエ組曲「白鳥の湖」を、楽しい説明を加えながら聴かせていただきました。第2部では吹奏楽部の子どもたちが加わっての演奏でした。吹奏楽部が以前より取り組んできた2曲でした。楽団の方たちに加わってもらう形で演奏していただくことで、見事に共演の願いをかなえていただきました。部員から、「澄んだ音を真近で聞くことができてうれしかった。同じ曲が全く違った表現になっていた。ますます音楽を好きになった。」という声が聞かれました。

会場には、さまざまな楽器を初めて実際に見たという生徒も多く、本物のクラシックを生で、それもこんな近距離で聴けたという感動が満ちていました。

そして驚きのクライマックス。行事のたびに歌い続けてきた本校の愛唱歌「ケサラ」と「校歌」をオーケストラと一緒に合唱することができました。オーケストラをバックに校歌を歌ったことのある学校はほとんどないのではないかと思います。体育館が一杯に広がった演奏と合唱。音楽と一緒に作り上げる喜びで満たされました。この迫力ある生の演奏は、子供たちの心の奥まで届いたことでしょう。

学校現場では芸術に触れる機会を子供たちに与えてやりたくても、保護者の経済的な負担を考えるとなかなか機会はありません。学校の実情を理解してくださった上で、内容を組み立て提供してもらえたこのプログラムは非常に利用しやすいものでした。学校において、この事業を利用させていただく意義は非常に大きくありがたいものです。今後ともこの事業が継続され、より多くの方の芸術に触れる機会になればと思います。

芸術文化講習会 開催部門の声

山梨県芸術文化協会朗読部門 部門長 永田 京子

朗読部門では表現力の向上をめざした講習会を実施しています。

山梨県では大勢の皆さんが朗読に取り組んでいます。いまや裾野は確実に広がりました。続いての課題は表現力の向上です。文字を読むのではなく”内容を話して伝える”言葉力をアップする取り組みです。

研修ではNHK日本語センターの講師から最新朗読の理論と実践を対面指導で学びます。意味や内容が伝わるよう、課題分を繰り返し声に出して表現法を磨きます。

日本語は音の高低の関係が意味を表す決め手となること、日常の話し言葉は意味のまとまりが一つの息のつながりで話されることなど、最新の方法論を基礎から応用まで段階的に身につけていきます。



よく響かせた美しい声で文字を音声化することから抜け出し、文章の意味や内容が伝わるように聞き手に届けることは、簡単なようで難しいものがあります。

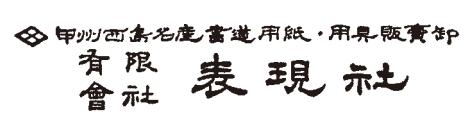
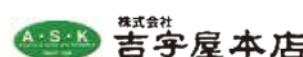
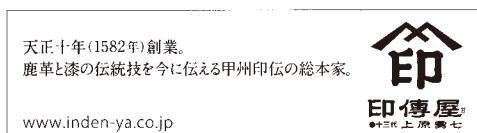
言葉によるコミュニケーションは一朝一夕には習得しがたいものです。最も重要なのが読解力であり、納得がいくまで下読みして内容を理解してから声に出します。発音、発声、アクセント、イントネーションは繰り返しの積み重ねによって身につけるものです。

最近は、司会、曲目解説、ナレーション等の依頼が増えていることから、情報を伝えるニュースや説明文、リポートなど放送の基礎も練習します。

朗読部門により実施される講習会が、時代を担う指導者の育成に繋がるよう、今後も継続して参ります。

賛助会員の紹介

当協会の趣旨に賛同してくださりご協力をいただいている賛助会員の皆様です。令和元年9月1日現在



(一社)山梨県労働者福祉協会

公益財団法人 やまなし産業支援機構



チラシ パンフレット 作品集 記念誌 あらゆる印刷物に対応

